

株式会社「コバリキ」 創設100周年へのメッセージ

原子力産業協会顧問
元・東京電力常任監査役 宅間 正夫



小林力三様は、私が東電柏崎刈羽発電所勤務のころ「新潟県を豊かにする会」会長として発電所へのご支援に大変なご尽力をいただき、大きくて懐深い慈父のごとき力強い後ろ盾に大船に乗った気で発電所運営に当たりました。あるとき小林様と、例のごとく温めの燗をした“越の寒梅”をやりながら「義経伝説」を楽しんだ後、柏崎市古書店で偶然、大正頃の小谷部全一郎「成吉思汗は源義経也」を見つけてお届けして大変喜ばれました。懐かしい思い出です。



小林力三サイドストーリー 同時代を生きた方が語る二代目力三の姿

本物の美術愛好家

元新潟日報社社長 五十嵐 幸雄



小林力三氏とは40年ほど前、私が40歳ちょっと過ぎのころ、ある画家の個展会場で同席したのが出会いの始まりです。その場で県内の美術事情に詳しい氏の存在を知ったのです。それからは美術展や各種催しのパーティなどで氏との懇談の機会が増え、ときには二次会になることも。アートに疎い私にとっては、教えられることが多く、勉強になりました。的確、シンプルな表現が魅力的でした。

久保尋二氏(元新潟大学教授、美術史、故人)は著書の中で「真剣に創作する美術家」「それを支持し育てる本物の美術愛好家」「それに共鳴、支持する公衆」が一体となったとき、その地方の美術水準は向上する一と述べています。因みに久保氏は教授退任ののち新潟市美術館長に就き、その美術館に小林氏は自らが戦前に購入したプロレタリア前衛美術家の絵画多数を寄贈しました。小林力三氏は「本物の美術愛好家」だったと思います。